

COC ニュースレター

地域に根ざし、世界をみざす。—Center of Community—



「知多半島フットケアサポートの会」直伝！予防フットケア実践

本学は、全学的に地域連携教育を推進しており、持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」の養成に取り組んでいます。全学教育センター科目「知多半島のふくし」の中で実施される「COCデイ」は、大学が位置する知多半島の課題解決に取り組むゲスト講師を迎え、この地域の現状や地域に対する理解を深めます。2025年度は、スポーツ科学部とともに、「スポーツ観戦がつなぐ人・地域・未来：スポーツで広がるまちの物語」をテーマにシンポジウムが開催され、対面とオンデマンドで約600人の学生が参加しました。

■基調講演 観戦文化が地域を育てる

～ スポーツを媒介とした地域活性化の可能性～

大阪体育大学 スポーツ科学部

藤本 淳也 教授

■シンポジウム 観戦文化がつなぐ人・地域・未来

～ スポーツを媒介とした共生と育成の現場から～

〈シンポジスト〉 三河ベイフットボール株式会社

佐々木 賢二 様

株式会社CRAFT A

安部 未知子 様

株式会社中日ドラゴンズジュニアコーチ

丸山 泰資 様

大阪体育大学スポーツ科学部

藤本 淳也 教授

〈コーディネータ〉日本福祉大学スポーツ科学部

住田 健 准教授



基調講演では、大阪体育大学の藤本淳也教授により成果報告会を実施され、M・グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ（The Strength of Weak Ties）」が引用され、スポーツ観戦が人々を緩やかにつなぎコミュニティを形成することで、新たな市場の創出や地域経済の活性化に寄与するというスポーツ社会学の知見を学びました。続くシンポジウムでは、藤本教授はじめ4名のシンポジストが登場されました。刈谷FCを運営する三河ベイフットボール株式会社の佐々木様からは美浜キャンパスが位置する愛知県美浜町でのスポーツを通じた地域活性化の事例についてお話いただきました。学生は、スポーツによるウェルビーイング向上と地域づくりの可能性について、地域のスポーツクラブをいかに地域づくりに活用していくか、その具体策とスポーツクラブのマネジメントについて学びました。

半田市中心市街地活性化プロジェクト「成果報告会」が開催

「マチプロ」は、半田市創造・連携・実践センターの指定管理者の一般社団法人はんだのたねと日本福祉大学社会福祉学部が連携して、半田市中心市街地の活性化を目的にスカラシップ学生が中心となり地域課題の解決に取り組む長期プロジェクトです。2025年11月6日（木）に、クラシティ半田において、成果報告会を実施し、社会福祉学部スカラシップ生で構成される6つのチームがこれまでの活動成果を報告しました。

例えば、若者の居場所づくりの課題では、ボードゲームを通じた交流イベントを試行して、高校生や大学生のまちのなかの居場所づくりや、商店街の写真スタジオと連携してフォトコンテストを主催し、地域住民参加型の魅力発信の機会を創出しました。活動を指導してきた社会福祉学部久保樹里准教授は、「学生にとって地域との連携は、必ずしもすべてがうまくいったというわけではなかった。しかし、地域の課題に関係者とコミュニケーションをとりながら取り組んだ挑戦は“生きた学び”として学生一人ひとりに蓄積された」と、地域関係者との調整しながら、提案した企画を実践していく中で、学生がしっかりと成長していく姿を評価しました。また、報告会には、中心市街地活性化に係る事業の市長特任顧問の伊藤 大海様はじめ商店街や市職員など地域関係者の方も多く参加いただき、貴重なアドバイスをいただくなど建設的な質疑応答が行われました。この場をお借りして、日頃からの本学の教育・研究活動への御礼もうしあげます。

※本取り組みの一部は、半田市中心市街地活性化を目的とした助成金によって実施されました。



地域で活躍する「ふくし・マイスター」

日本福祉大学では、平成26年（2014）年度文部科学省「地（知）の拠点整備推進事業」の採択を契機として、知多半島の関係自治体や課題解決に取り組む地域関係者とともに、「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」に取り組んでいます。2025年度は723名（前期卒業含む）の卒業生が「ふくし・マイスター」の修了証を授与されました。これまでに6,000名以上の卒業生が「ふくし・マイスター」として、知多半島での学びを活かし、それぞれの地域に貢献・活躍しています。さらに、2024年度からは通信教育部においても、「全国各地に住む学生が、それぞれの住まいや職場で、身近な人々や地域が抱える課題を自分ごととして捉え、『ふくし』の視点から課題解決に取り組むための学びを修了した学生」を「通信版ふくし・マイスター」として認定しています。

卒業までに地域志向科目10科目20単位以上
＋
毎年度リフレクション（ふりかえり）を実施



ふくし・マイスター

「ふくし・マイスター」とは、地域の課題を理解するとともに、生涯を通して地域と関わりながら暮らす市民としての基礎力、地域課題を見据える「ふくし」の視点を身に付け、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して「身をもって」地域課題の解決に取り組むことができる人のことです。

※取得イメージは、通学課程における「ふくし・マイスター」の説明です。

ふくしフィールドワーク実践（防災とくらしクラス）

～知多半島の地域課題を通して多学部で学びあう体験学習の場～

「ふくしフィールドワーク実践」では、フィールドワーク、ワークショップなど実践的な授業手法を中心として地域の様々な取り組み・課題に触れ主体的に学びます。この科目の特徴は、地域社会での体験学習を重視し、専門の異なる学部の学生がグループで学びあうこと、地域の様々な関係者との出会いの中で多職種や多分野の連携を学ぶことです。「事前学習、フィールドワーク、事後学習」を集中的に展開して学びを深める中で、異なる学部同士の学生が互いの知識を融合させ、課題解決に取り組みました。2025年度は、4つのクラスで開講しました。

防災とくらしクラス（担当：全学教育センター准教授村川弘城・高村秀史講師）では、美浜・南知多防災の会の方から、地域における防災・減災活動について学びました。防災・減災の視点で美浜町の上野間地区から奥田地区をフィールドワークを行い、被災した場合に空き家の扉など崩れかけている危険な個所や社会的弱者の避難における課題を発見しました。2日目には、美浜キャンパスで防災キャンプを実施して、避難した際の避難所体験をしました。

学生たちからは、「テント内は予想以上に暗くて、孤独を感じた。」「テント内で避難所内の音が聞こえてきて、あまり眠れなかった。防災用品に耳栓が必要だと思った。」など、実際に体験したからこそ得られる気づきがあったようです。最終日には、学生が地域の一員として、「互助」を豊かにするための施策をまとめ、発表しました。



岐阜市の障がい者支援施設と共催で地域共生に向けた課題解決ワークショップ ～ラジオで番組制作で考える地域づくりの可能性vol.2～を実施しました。

日本福祉大学は、平成27年度より岐阜大学を幹事校とする5大学で協定を締結して、「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」の一員として、岐阜県域の産業界ニーズに適合した人材の育成、産官学共同による雇用創出によって、学生の地元就職と岐阜県へのUターン就職を推進し、地方創生に貢献しています。また、コンソーシアムにおける共通プログラムのほかに、本学独自のプログラムとして2025年度は、岐阜市の社会福祉法人いぶき福祉会と共催で、課題解決型ワークショップを企画しました。さまざまな学部の学生が、障がい者福祉と地域社会をつなぐ新しいコミュニティの創出（ソーシャル・キャピタルの醸成）の課題に対して、ラジオ番組の制作を通して挑みました。

学生らは、「縁がわマルシェ」という団体の地域イベントに参加したり、運営する福祉サービスの現場で“なかま”と一緒に活動し、その音を編集してラジオ番組を制作しました。作品は、stand.fm「いぶきのえんがわラジオ」で視聴することができます。



※本取り組みは、日本福祉大学後援会の助成を受けて実施されました。

「地域連携型研究助成制度」

「地域連携型研究助成制度」は、本学教員と地域の関係者がともに取り組み実践的研究を支援する本学独自の研究制度です。2025年度は、以下4件が採択され取り組まれました。

【2025年度 地域連携型研究助成採択一覧】

- 「マルジュウ杉江家の窯業と常滑焼の展開」
研究代表者：経済学部 教授 曲田浩和
- 「デジタルものづくりを取り入れた地域における
多世代交流まちづくりに関する実践的研究」
研究代表者：工学部 准教授 坂口大史
- 「知多半島の工場内におけるゼロカーボンの森の創造
～JFEスチール（知多製造所）（半田市）における新しいピオトープの提案～」
研究代表者：工学部 教授 福田秀志
- 「「笑い」が媒介する育児ネットワーク：
ソーシャルキャピタル構築の一要因としての検討」
研究代表者 看護学部 准教授 尾関唯未

研究成果報告書については、過去に採択された研究テーマも含め、下記QRコードよりご覧いただけます。



SDGs×地域連携



SDGsとは国連が定めた持続可能な開発のための国際目標であり、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。本学は「ふくしの総合大学」として、人がしあわせに生きられる社会の実現と支援をめざし、65年以上にわたり教育と研究を続けてきました。

▶ SDGs 子ども・ユースワークフェアにて国際学部がSDGsの取り組み紹介

2025年10月3日（金）、4日（土）に愛知県国際展示場（愛知県常滑市）にて開催された「SDGs 子ども・ユースワークフェア2025」に日本福祉大学のブース出展を行いました。企業、大学／学校、NPO、自治体がSDGs関連の取り組みを展示するこのイベント。メインステージでは、スペシャルゲストや出展者の講演だけではなく、ファッションショーといった、観て楽しむイベントもあり来場者と出展者が一体となって様々な観点からSDGsを考える機会が創出されています。

本学では昨年度に引き続き国際学部が出展し、アジアの複数の国の留学生と共修している学部ということもあり、普段取り組んでいる様々な活動をパネルや動画で紹介しました。大きな会場内には、SDGsに取り組んでいる企業のほか、高校や県内外の大学からの出展も多く、参加者同士がお互いの取り組みを紹介し合うなどの交流もはられました。

ブースでは、留学生の出身国の言葉で書かれた「世界のこんにちはの缶バッジづくりコーナー」を設け、多くの子どもたちや高校生が色とりどりの缶バッジ作りに挑戦しながら、「ネパールってこんな文字なんだ!」「どうやって発音するんだろう」など盛り上がっていました。



ふくし AWARD 2024 地域に根ざし、世界をみざす「ふくし」の学びを伝えよう!

ふくしAWARDは、「地域に根ざし、世界をみざす『ふくし』の学びを伝えよう!」をテーマに、学生が正課内外の地域活動を通して学んだことや考察したこと、授業の一環や個人の関心により調査したことなどを発表するプレゼンテーションコンテストです。2025年度は、最終審査に残った英語部門4作品、日本語部門4作品のプレゼンテーションが行われ各賞が選定されました。日本語部門で大賞を受賞した社会福祉学部2年勝負 心咲さん、斉藤 和花さんのグループ（認知症プロジェクト所属）は、ぎふCOC+コンソーシアム「全国学生交流会」でも、支援者の声をヒアリングし認知症啓発トイレットペーパーを制作した内容について、オリジナルキャラクター“みまもろう”誕生エピソードを交えて伝え、他大学からも賞賛を受けました。



知多半島で広がる協働による持続可能なまちづくり

美浜町

みはまスポーツフェスティバル2026

一般社団法人みはまスポーツコミッション設立を核としたスポーツによる地域共創の推進日本福祉大学は愛知県美浜町と連携し、スポーツを核とした地域づくりを推進するため、一般社団法人みはまスポーツコミッションを設立しました。本コミッションは、スポーツイベントの企画・運営やスポーツ合宿の誘致、健康づくり活動の推進などを通じて、教育・福祉・観光・地域経済を結びつけた新たな地域連携モデルの構築を目指すものです。大学の教育研究資源や施設を活用しながら、地域住民や行政、関係団体と協働し、スポーツを通じた地域活性化と健康増進の実現に取り組んでいます。こうした取り組みの一環として、2026年2月にはコミッションの主催事業として「みはまスポーツフェスティバル2026」を日本福祉大学体育館において開催しました。



イベントではトップアスリートによる走り方教室などが実施され、地域の子どもから大人まで幅広い世代が参加し、スポーツの楽しさや身体を動かすことの大切さを体験する機会となりました。本コミッションの活動は、地域住民の健康づくりや交流の促進に寄与するだけでなく、学生にとっても実践的な学びの機会となります。スポーツイベントの企画や運営への参加を通じて、地域と関わりながら学ぶ教育の場が広がることも期待されています。

日本福祉大学は、一般社団法人みはまスポーツコミッションを拠点として、スポーツを通じた地域共創をさらに発展させ、教育・福祉・健康・地域活性化を結びつけた取り組みを継続的に推進していきます。



半田市

半田市共催講座「親子染め物大作戦！
～親子で考えるSDGs-
廃棄野菜で染め物体験！～」を開講



昨年も好評であった『親子染め物大作戦！～親子で考えるSDGs-廃棄野菜で染め物体験！～』（企画：(株)エヌ・エフ・ユー）講座を今年も開講しました。

この講座ではタイトル通り、廃棄されるはずの玉ねぎの皮やブルーベリーを利用して、親子でハンカチの染め物体験を行いました。今年も多くの親子が参加され、染め物体験を通してSDGsについて考える貴重な機会となり、持続可能な未来についての意識を深めました。また講座の途中では、SDGsクイズが行われました。染め物体験やクイズを通して親子の絆を深めるとともに、SDGsについて理解を深める機会となりました。



東海市

MFL東海市（短編映画プロジェクト）に
本学学生が参加しました！

東海市が昨年から取り組むMFL東海市（短編映画プロジェクト）に本学の学生が参加し、5月に開催されたプレミアム上映祭では、加藤浩次監督、加藤シゲアキ監督らの制作作品とともに経済学部学生2名が制作に参加した地域特別制作作品『空への足跡』も上映されました。参加した学生は、脚本づくりから制作・機材・編集の講座を受講したあと、撮影部・照明部・録音部・演出部・制作部の役割に分かれ実際に作品『空への足跡』の撮影を行いました。

また、国際学部学生2名は、MFL東海市実行委員会メンバーとして、スチールカメラマンとして、本映画制作プロジェクトの記録写真を撮当し、撮影した写真は映画祭会場で展示され、多くの来場者が観覧しました。その他、映画祭会場で販売されたグッズ制作や映画祭の当日運営に多くの学生が関わりました。



日本福祉大学 地域連携事業推進本部
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35番6
TEL 0569-87-2972 FAX 0569-87-2614（企画政策課）
<http://www.n-fukushi.ac.jp/coc>

文部科学省
地(知)の拠点